

Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



2025.08.16

No.017



八地申
第2号

「働きがい」「生きがい」の持てる職場を創り出し、
安全で信頼される鉄道を取り戻す申し入れ

2025年8月6日提出！【No.2】

(続き)

6. 相互運用を実施する事故・事象が発生した際、当該社員個人の責任追及をやめ、丁寧な原因究明の実施と再発防止に向けた教育・訓練を徹底すること。また、事象が発生したことを周知し、会社としての具体的な再発防止対策を示すことなく社員個人の努力・注意力のみに頼ろうとする姿勢を改め、実施した原因究明の結果を含め具体的な事象の詳細・背景、具体的な再発防止対策などを周知・教育すること。
7. 社員周知・教育がタブレット配信のみになっており、内容を知らない社員や理解していない社員が散見される事態となっている。タブレット配信＝社員周知・教育の考え方をやめ、“社員同士の会話により業務知識の相互理解が深まり、接客レベルやサービスレベルの向上に寄与する環境”を整えるために「掲示板への掲出」と「勉強会などでの周知・教育」を同時に行い、確実な社員周知・教育を実施すること。
8. 要員不足により、勤務発表時点から指導員・指導副長に定期行路が割り振られ、乗務員指導や人材育成などの本来業務を時間外労働で行わざるを得なくなっていたり、多くの社員が休日出勤に加えて企画業務や訓練などの必要な業務を時間外労働で行ったりし、十分な休養が取れておらず疲弊した社員が散見される不安全な職場実態がある。安全・安定輸送、質の高いサービス提供の観点から、休日出勤ありきの勤務作成をやめること。また、支社としての具体的な改善策を講じること。
9. 多くの駅でみどりの窓口を閉鎖してきたことにより、現在もみどりの窓口が設置されている駅では混雑対策に苦慮している。会社は、混雑対策として臨時窓口の開設などを示したが、要員不足により待たずに購入したいというお客さまのご期待に添いたくとも添えない職場実態がある。現場社員に一方的な負担を強いる実現困難な対策ではなく、現場社員に寄り添った実現可能な具体的な混雑対策を実施すること。
10. 日野駅や奥多摩駅などの1徹体制となっている駅では、輸送障害などが発生した際の対応に時間を要している実態がある。これは、全ての業務を一人の社員が担わなければならないからであり、当該社員の負担は計り知れない。「近隣駅などから応援社員が向かうので協力して対応して欲しい」と会社は言うが、応援社員を捻出することすら厳しく、有人駅から向かうにしても距離が遠く相当な時分を要してしまう現実とは乖離している発言である。1徹体制の駅での社員の負担軽減と輸送障害などが発生した際の対応力確保のため、体制を見直すこと。
11. 南武線ワンマン運転化による通勤時間帯を中心とした定時性低下が発生し、ご利用のお客さまの利便性も低下している。加えて、お客さまからご意見をいただく社員が返答に苦慮している実態がある。このことから、定時性確保によるお客さまの利便性向上に向けた具体的な対策を講じ、施策を実施した経営責任を取ること。
12. 中央快速線などへのグリーン車導入により輸送混乱発生後の遅延回復に時間を要し、慢性的な定時性低下が発生し、ご利用のお客さまの利便性が低下している。加えて、特急列車も遅延することで、身延線・小海線・中央西線・篠ノ井線・大糸線などの広範囲に影響を及ぼしている実態がある。このことから、早期の遅延回復による定時性確保によるお客さまの利便性向上に向けた具体的な対策を講じ、施策を実施した経営責任を取ること。

地本大会・支部大会での代議員発言に基づいて申し入れました。

会社施策実施に伴い失われていく「働きがい」「生きがい」を取り戻し、
社員からも地域からも愛される鉄道の再建を目指していこう！